

UI カラーのシンボルロゴへの適用

シンボルに UI カラーを用い、ロゴタイプに黒を用いる展開が基本となります。単色の場合には黒、UI カラー、その他の色彩を適用できます。

UI カラーと黒の 2 色を用いた基本配色



単色の展開



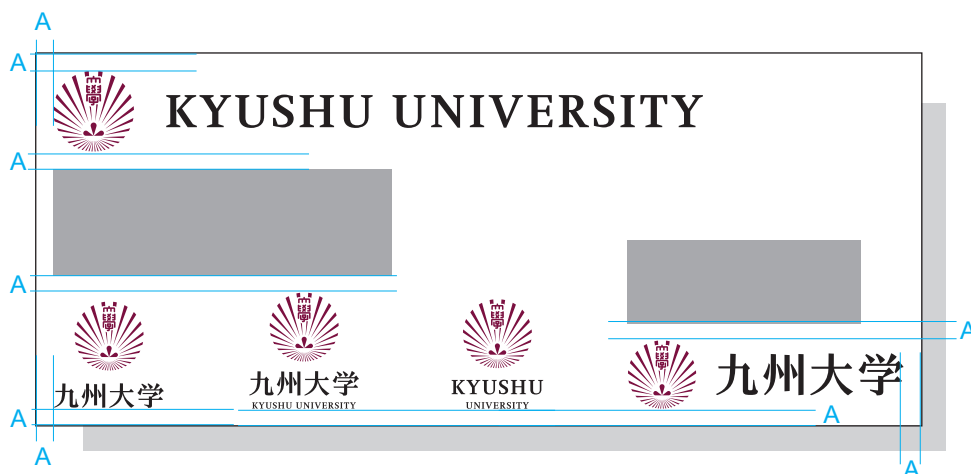
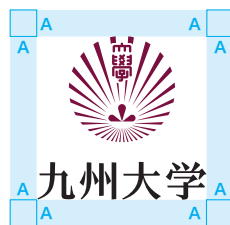
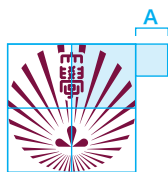
シンボルロゴの配置について

空間が限られているなどの制約のある例外を除き、シンボルロゴは、余裕のある空間に配置するとより効果的です。シンボルロゴの配置にあたっては、シンボルロゴへの他の要素の干渉を防ぐため周囲のグラフィック要素、紙面の端との間に最小限確保すべき余白を規定しています。

このようにシンボルロゴを独立させて配置することを「アイソレーション」と言います。アイソレーションのルールは下記の説明のとおりですが、利便性のために、最小限確保すべき周囲の空間を含んだシンボルロゴのデータを提供しています。このデータを画像や文字などを重ねずに使用すれば、正しく配置されます。

ただし、部局などの名称と組み合わせる場合には、この規定は適用されません。

アイソレーションの仕組みは、下図のとおり、シンボルの直径の4分の1を最小限必要な余白 (A) として算出しています。



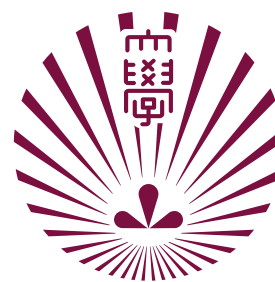
シンボルロゴが小さい場合

シンボルロゴをあまり小さく用いると、見づらくなってしまいます。そこで、小サイズ用のシンボルを別に用意し、以下のように定めたルールによってシンボルロゴを使い分けます。

標準シンボル



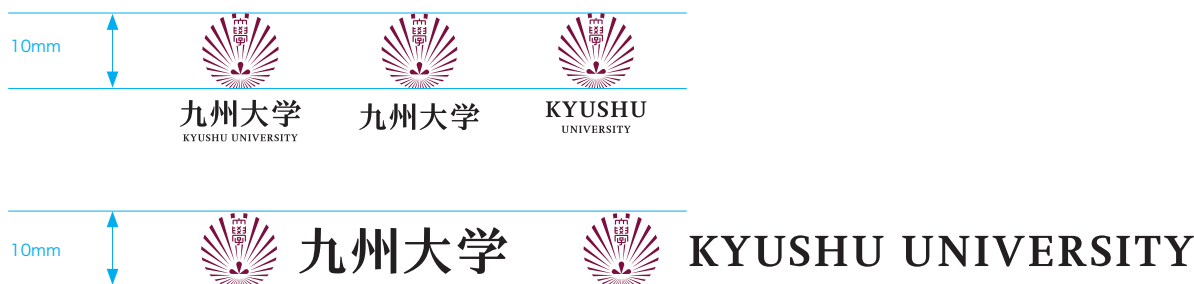
小サイズ用シンボル



サイズを小さくしても可視性を保てるように、特別に「大学」の文字の線を細くデザインしています。

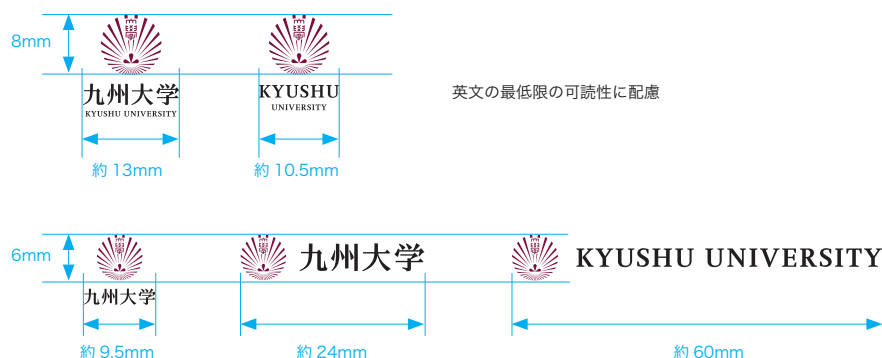
「小サイズ」の規定

シンボルの直径が 10mm 以下の場合、小サイズ用シンボルで構成されたシンボルロゴ（小）を使います。



最小サイズ

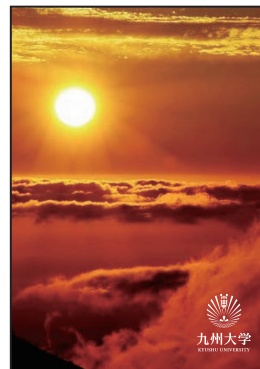
シンボルの「大学」の文字の可読性、および英文の可読性を考慮して、標準的な印刷を想定した場合のシンボルロゴの最小使用サイズを以下のように定めています。DTP プリンタでの出力、インターネットの HP など解像度の低い使用環境では、適宜可視性、可読性を個別に考慮する必要があります。



シンボルロゴの背景について

シンボルロゴを写真や模様や色のついた背景の上に配置するときは、なるべく薄い色で無地に近いところに来るようにします。以下に例をいくつか紹介します。

シンボルロゴの背景色は、シンボルロゴのカラーに影響を与えないカラーを選びます。右の事例は無彩色です。



背景色がUIカラーの場合は白抜きが適切です。



背景色が濃い色彩の場合は白抜きが適切です。



パターンの入った背景にシンボルロゴを配置するときには、なるべく無地に近いスペースを使用します。また下地のパターンのコントラストを下げるなどの工夫も有効です。

写真の上にシンボルロゴを置くときは、無地に近いスペースがちょうどシンボルロゴの背景になるようにレイアウトします。また、シンボルロゴの背景にあたる部分のコントラストを下げるなどの工夫も有効です。濃い色調の写真の場合、シンボルロゴは単色が適切です。



各部局のシンボルとの組み合わせ

各部局が独自のシンボルを使用する場合は、九州大学のシンボルは用いず、ロゴタイプのみを表記し、その下のレベルに部局シンボルと部局名などを併記します。この場合、九州大学のシンボルロゴは常に左右方向の組み合わせを用います。また、配置のルールは下記のとおりですが、基本的なルールはシンボルとそれを示す文字を常に近くに置くことです。

部局の名称や住所などの文字は、原則として、小塚ゴシック、ヒラギノゴシック、MSゴシックなどの代表的なゴシック体から任意のものをを選び、部局のシンボルと組み合わせます。

■組み合わせ用に用いるシンボルロゴのタイプ：左右組み合わせタイプ



■縦に表記する場合の事例

■部局などが固有のシンボルを有さない場合



■部局などが固有のシンボルを有する場合



■横に表記する場合の事例

■部局などが固有のシンボルを有さない場合



■部局などが固有のシンボルを有する場合



印刷物におけるシンボルロゴの展開の基本的考え方

■和文と英文

A 和文広報誌など

5タイプのシンボルロゴのうち、以下の3つのタイプのシンボルロゴを用います。



B 英文広報誌など

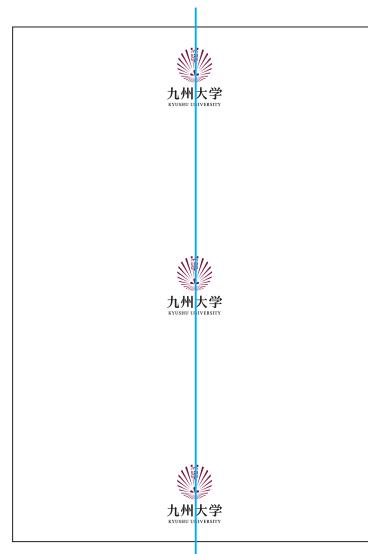
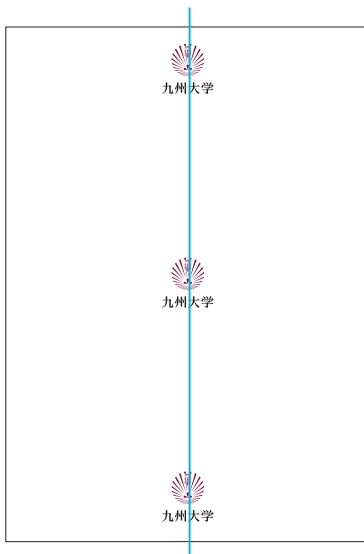
5タイプのシンボルロゴのうち、英文専用の以下の2つのタイプを適宜用います。



■天地組み合わせタイプと左右組み合わせタイプのシンボルロゴの使い分け（推奨）

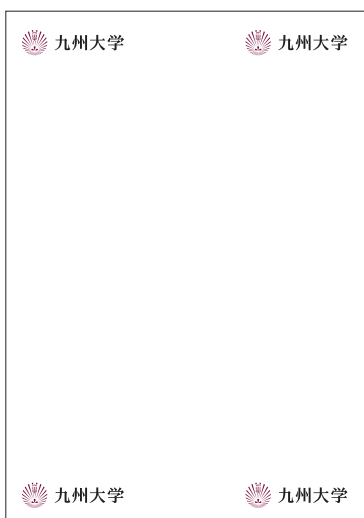
A 天地組み合わせタイプのシンボルロゴ

天地組み合わせタイプのシンボルロゴは、左右センターに配置するレイアウトに適しています。



B 左右組み合わせタイプのシンボルロゴ

左右組み合わせタイプのシンボルロゴは、左右のいずれかに寄せたレイアウトに適しています。



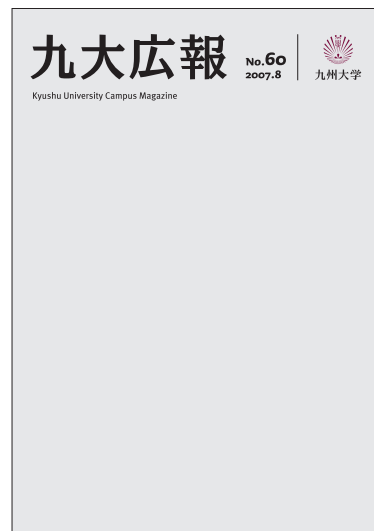
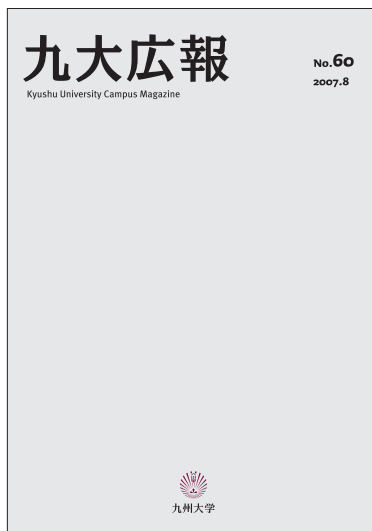
印刷物におけるシンボルロゴの展開事例

「九大広報」を事例に、シンボルロゴの展開の考え方について説明します。九大広報の表紙には、かならず和文用のシンボルロゴのいずれかのタイプを記載します。表紙のデザインによって、二色構成、単色構成いずれでもかまいません。

天地組み合わせタイプのシンボルロゴでも次の事例のように罫線などの工夫によって左右のいずれかに寄せたレイアウトも可。

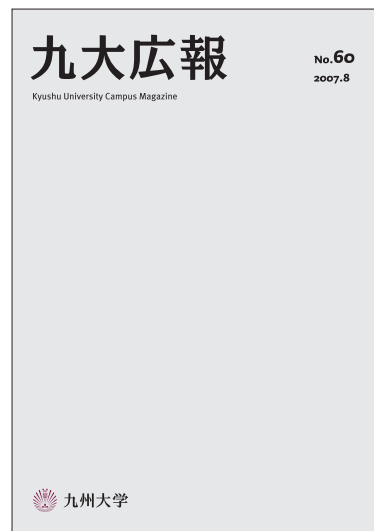
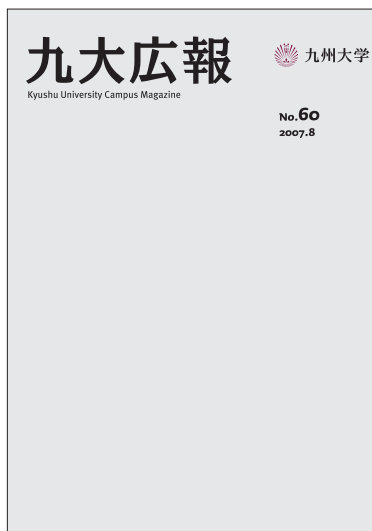
A 天地組み合わせタイプのシンボルロゴ

天地組み合わせタイプのシンボルロゴは、左右センターに配置するレイアウトに適しています。



B 左右組み合わせタイプのシンボルロゴ

左右組み合わせタイプのシンボルロゴは、左右のいずれかに寄せたレイアウトに適しています。



表紙の裏面のように、掲載する情報が少ない場合には、天地組み合わせタイプのシンボルロゴを中央に配置することが望ましい。